

令和7年度第2回名取市市史編さん委員会 会議録

日 時：令和8年2月5日（木）午後1：30～午後3：00

場 所：仙台法務局名取出張所2階 名取市教育委員会 会議室4

出席委員：鈴木博幸副委員長、笠原信男委員、菅野正道委員、千葉正樹委員、
藤澤敦委員、小島哲夫委員、小野友和委員、齋藤幸造委員、仙石次男委員

欠席委員：渋谷武志委員長、小室昌弘委員

事務局：山家ちとせ教育部長、林タケル室長、菱沼弘一室長補佐兼係長、
鈴木健仁主幹、鈴木雄己主事、鳥居建己主任専門員、李スルチヨロン専門員、
劉明達専門員、鈴木詩織専門員、高橋舞専門員

1 開 会（13時30分～）

2 あいさつ

〔副委員長よりあいさつ〕

〔事務局より配布資料の確認〕

〔議事録作成について概要記録の旨委員了承〕

〔傍聴者1名の報告〕

3 議 事

（1）報告事項

①令和7年度事業報告について

〔事務局より資料1を説明〕

〔専門委員会委員長及び各部長より資料2を説明〕

委 員

令和7年度第1回名取市市史編さん委員会を10月に開催したが、上半期に開催していただきたいです。また、国際熊野学会名取市合同大会にお越しいただいた鈴木正崇先生の講演会を企画していただきたいです。

事務局

昨年度の3月に委員会を開催した後、新年度に入り協議事項を整理していたため、10月に開催しました。また、講演会については検討します。

②令和8年度専門部会・調査予定回数について

〔事務局より資料3を説明〕

〔委員からの質疑応答なし、了承〕

（2）協議事項

①令和8年度事業計画について

〔事務局より資料4を説明〕

委員

来年の3月に最初の巻が刊行予定となっておりますが、その巻に伴う刊行情報をいつ頃からのように発信するか検討した方が良いと思います。過去に『仙台市史』では刊行する巻のPRを兼ねた講演会や講座を実施しました。

事務局

市で持っている様々な媒体で情報発信することを検討しながら進めていきたいと思っています。

副委員長

令和8年度の事業計画についてお認めいただけるということでよろしいでしょうか。

〔委員了承〕

②巻の名称について

〔事務局より資料5を説明〕

委員

「自然と暮らし」から「名取の暮らし」に名称を変更した理由が知りたいです。

事務局

当初は自然を巻の中で扱う予定でしたが、巻の中心は民俗・地域誌です。現在の名称であると誤解を招く可能性があるため、このような名称に変更したいと考えています。なお、自然の部分は暮らしのなかで取り入れていく予定です。

副委員長

巻の名称についてお認めいただけるということでよろしいでしょうか。

〔委員了承〕

③市史の販売価格と電子書籍化について

〔事務局より資料6を説明〕

委員

販売価格4,000円で印刷会社は対応できますか、あるいは、4,000円と5,000円で、どういう質の違いが出ますか。

事務局

印刷には8,000円かかります。収入について4,000円もしくは5,000円どちらに設定するかという判断であり、印刷物の内容に変わりはありません。

委員

8,000円の差額については市の負担になりますよね。財政当局との交渉も必要ではないですか。

事務局

ご発言のとおり、受益者負担という点から8,000円の販売が本来あるべきという考えも

ありますが、市では収益事業ではなく、また、原価を回収するという方針でもありません。財政課との調整もありますが、委員会としてより買いやすい4,000円にするのかそれとも5,000円にするのかといった判断をお願いしたいということでございます。

委員

購入者が増えて、新たに作成する場合、印刷費がさらに高騰したとしても価格を引き上げるわけにはいかないと思いますが、その際も、市の負担となりますか。

事務局

増刷の際、価格の引き上げは難しいと考えております。販売の収益を事業の何かに使うという紐づけはありません。どのぐらい費用が回収されるかということになります。

委員

6ページに配布先の案がありますが、保存部数と販売部数が示されていません。

事務局

配布数の合計が264部と出ていますが、これは増減する可能性があります。これに保存も含めて調整するので概ね300部が保存及び配布数となり、500部が販売数と考えております。

委員

保存分は34部でよろしいですか。

事務局

若干増減が出るかもしれませんが、概ねそういう計算になります。

副委員長

販売価格についてご意見をいただきたいです。

委員

購入する方からすれば安い方が良いですが、時代の流れもあり簡単に言えないと思います。参考に『岩沼市史』は3,000円でした。

事務局

名取市史は約800ページで、岩沼市史は約500ページとページ数に差があります。

委員

買う側の意向に配慮すると当然求めやすい価格が良いとは思いますが、ただし市で財政の点での問題はありますかと思います。

副委員長

では、この場でのご意見としては、購入しやすい価格（4,000円）が良いが、財政との調整は別途必要ということでまとめたいと存じます。事務局はよろしいですか。

事務局

はい。

副委員長

電子書籍についても意見を伺います。

委員

データ公開の件について、国立国会図書館はPDFデータのダウンロードが可能です。Web pamphlet library でダウンロードをブロックする意味が無くなると思います。

事務局

国会図書館では各自治体の公式サイトでPDFにより公開しているものを公開しています。当市ではPDFの公開は考えていないため、国会図書館で掲載できるかどうかは今後、先方と協議します。なお、ダウンロードは出来るものと、出来ないものがあるようです。自治体の要望を踏まえての設定も可能であると思います。

委員

検索について国立国会図書館では章ごとで別ファイルになっていたと思いますが、1冊すべては検索できないですね。

事務局

国立図書館でもできます。また、当市で考えているWeb pamphlet library は、全ページ掲載を想定しており、全ページ検索も可能です。

委員

資料6の5ページの取り組み状況の表において、公開状況が三角の印となっているのはどうしてですか。

事務局

補足にもありますが、肖像権の関係などから書籍の全部ではなくて一部を公開している場合です。

委員

資料6の1ページの普及版の販売価格が未記載となっています。

事務局

普及版はダイジェスト版として全5巻をまとめ、最後に販売する巻となります。そのため内容やボリューム感が見えていないため、今後改めて検討します。

委員

電子化について仙台市でも取り組もうという話がありましたが、手法が煮詰まらなくて、最終的には実施しませんでした。名取市で行われれば大きな話題になるかと思います。利用者にとっても便宜が図られるかと思います。

委員

基本的には電子化は賛成です。ただし、あまりハードルを上げ過ぎずできるだけ使いやすい方向で検討いただきたいです。

委員

今は、中学校、高校は当たり前で、小学校でもタブレットを使って授業を受けています。名取市の学校の子供たちが『名取市史』で調べて学習にいろいろ活用していただけることになると思います。実現されることを希望します。

委員

私も賛成です。ただ内容の誤りなどが少し心配ではあります。今はどんどん研究が進み変わっていく可能性もあります。

副委員長

発刊する内容とリンクするものなので校正をしっかりとやっていく必要があると思います。

委員

委員と同様な意見であり、子供たちが活用できるのはとても良いと思います。

委員

賛成です。

副委員長

それでは確認いたします。電子書籍化については、慎重に進めていただきたいということで、概ね賛成の意見をいただきました。販売金額につきましては手に取りやすい価格の方が良いだろうという意見をいただきましたので、この案で進めていくことでよろしいでしょうか。

[委員了承]

(3) その他

副委員長

それではその他に移ります。事務局より何かございますか。

事務局

本委員会の委員の皆様への任期についてです。2年間ご協力ありがとうございました。今年の3月で一旦任期が切れることとなりますが、今後も団体皆様へ就任の調整をお願いしてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

委員

話が変わりますが、「名取市文化財ガイドブック」に3つの碑が掲載されており「雄幸（小佐治）・幾代の碑」、「名取老女の碑（墓）」とありますが、括弧による表記は見た目が悪く外すわけにはいかないでしょうか。また「藤原実方の墓」は墓としていますが、伝承を墓と断定して良いのかという疑問があります。その辺いかがでしょうか。

委員

おそらく『名取市史』では、実方の墓と伝わる場所が塩手にあるというような記述となり、幾代の墓については、中世の板碑なので、そのような伝承を持つ板碑という記述になるかと思います。ただ、委員のご指摘のガイドは文化財係で作成されているものです。いずれ『名取市史』で書かれたことについては文化財係でそれを反映するところはあるかと思います。文化財係でも『名取市史』を活用いただき、折々に情報交換していく必要はあるかと思います。

委員

私ごとで恐縮です。2号委員になり委員とお話する機会が出来て、私が長年調べたことを基礎資料として活用いただけることができました。委員を務めさせていただきありがとうございました。

委員

熊野の関連で委員にお聞きしたいのですが、本家の熊野には神楽が無いという点についてご説明いただけませんか。観光協会の会長をしている際、新宮市とは何度も交流した中で、本家熊野に神楽が残っていないと聞きました。

委員

今は伝わって無いということです。平安時代に上皇等が熊野を訪問した日記が残っており、

神楽を見たという記述があります。お金払うと演じてくれたようです。それから湯立神楽のことも書かれています。なぜ今に伝わらなかったのかは疑問ですが、湯立というのが熊野ではポイントになっており、例えば、那智参詣曼荼羅の中で湯立てに使われたと思われる釜が描かれています。多分巫女の湯立てですが、それに関するものが演じられた可能性が高いです。伊勢の神楽に湯立て神楽があり、現在では熊野伊勢流とされています。名取の熊野堂神楽や道祖神神楽でも湯立てがありますが、そこに繋がるのか、繋がらないのかという点で実はかなり注目しています。芸能について詳しい鈴木正崇名誉教授に執筆をお願いしており、今回、このあたりの関係がどう考えられるのか非常に興味があります。

副委員長

それでは長時間にわたり活発なご審議大変ありがとうございました。では進行を事務局にお返しいたします。

事務局

以上をもちまして、令和7年度第2回名取市市史編さん委員会を終了いたします。